

令和7年度台湾交流

生徒感想

Aさん

初めての海外研修で台湾の大安工高との交流や観光を経験しました。当初は言葉の壁に不安を感じていましたが、翻訳機や簡単な英語、ジェスチャーを駆使して共通の趣味である音楽やバレーの話で盛り上がり、現地の学生の積極的な姿勢に深い感銘を受けました。また、夜市の活気や歴史的な寺院の見学を通して台湾の文化を肌で感じ、国が違っても心を通わせ、互いを尊重し合う大切さを学んだ、自身の視野を広げる貴重な機会となりました。

Bさん

大安高級工業職業高校との交流では、実習での共同作業や翻訳アプリを通じた会話により、言葉が通じずとも心を通わせる喜びを実感しました。好きな音楽の話で現地の学生と意気投合し、ツールや技術があれば国を越えて仲良くなれると確信しました。一方で、水道水などの生活習慣の違いに驚き、日本の生活の有り難さを再認識する機会にもなりました。今回の経験で得た広い視野を持ち、今後も様々なことに挑戦したいと考えています。

Cさん

交流前は言葉や文化の違いに不安を抱いていましたが、現地の学生たちの温かい笑顔と積極的な姿勢に支えられ、拙い言葉や身振り手振りでも気持ちを伝え合う大切さを学びました。特に、日本との「人との距離感」や価値観の違いを感じたことは大きな収穫でした。この経験を通じて、外国や異文化に対する不安が解消され、より深く知りたいという意欲が湧きました。将来の進学や就職に向けて、この貴重な学びを活かしていきたいと決意しています。

Dさん

台湾研修で大安高級工業職業学校を訪れ、実習や交流を通じて現地の学生と親交を深めました。環境は違えど同じ高校生として共通点が多く、共通の話題で盛り上がる中で言葉の壁を越えたコミュニケーションの楽しさを知りました。また、士林夜市の活気や歴史的建造物を見学し、台湾の文化や歴史に直接触れたことも大きな刺激となりました。この経験で得た自信を糧に、将来は海外の人とも積極的に関わり、自分の視野を広げていきたいと記しています。

Eさん

三度目の訪問となり、過去の経験を活かしてより積極的に現地の人と交流を図ることができました。言葉が完璧でなくとも「伝えようとする気持ち」があれば十分に意思疎通ができると確信し、公共交通機関の利用などを通じて現地の生活を身近に感じました。学校交流では、同じ専門分野を学ぶ学生と協力して実習に取り組み、言葉以上の絆を実感しました。この研修で得た自信と経験を、今後の大学生活や将来の活動に繋げていきたいと意欲を見せてています。



















